

みどりアップQ

緑 × まち × 未来を考えよう

地域と育む学校農園 —戸塚区柏尾小学校—

戸塚区の柏尾小学校では、食育の一環として、5年程前から地域の方の協力を得て、学校から徒歩5分ほどの農地で「柏尾小農園」をスタートさせました。2年生は生活科でサツマイモを、5年生は総合的な学習の時間でダイコンやトウモロコシ、6年生は理科でジャガイモを、それぞれの授業で栽培しています。

野菜の作り方などは、地域の方たちが児童に教えてくれています。土づくりや畝づくりは難しいため、先生たちも含めた大人たちで対応しています。収穫したものは給食のメニューとして全校生徒で食べて味わう他に、日頃から協力してくださっている地域の方々にも食べていただき、お礼の気持ちを伝えています。「育てるとありがたさが分かり、給食を残す量も減り、表情もいい」と担任の杉本先生。

大都市横浜の農地が柏尾小学校の事例のように、子どもたちと地域の方々をつなぎ、食べることの裏側に様々な方たちの労力があることや、作る喜び、食べる楽しさを知る場として、ますます活用されていくことを願ってやみません。

文：大竹 斎子 委員



児童が作った柏尾小学校の食育キャラクター「かしおう」



強力な助っ人
地域の方々
「田植え歌」も
教えてくれます



収穫の様子

地域の方の手作りの
「柏尾小農園」看板



森のある小学校 子供たちの活動と維持管理 —青葉区谷本小学校—

青葉区谷本小学校には敷地内に「谷本の森」と呼ばれる1.3haの森があります。

平成17年頃から総合的な学習で6年生がこの森を守り育てるための活動を行っています。

現在は森林インストラクターや地域の大人の協力を得て学習や活動をしています。「6年生になったら谷本の森の活動が出来る」と楽しみにしている子どもたちも多いようです。

取材した日は、安全に森の中を歩けるように、階段を作る活動でした。森の保全活動に参加した児童が地域の方々と階段整備を体験し、その児童が中心となってグループごとに作業します。「たくさんの方が通る道を優先しよう」「草刈をしてから階段を作ろう」など相談しながら、みんなの知恵とアイデアで階段ができていきます。

小学生の活動はすごい!この森での活動を通して、子どもたちの世界は広がっていると感じました。ある6年生が「谷本小は遊び場(居場所)が3つある。外、中の他に森があるんだ」と自慢げに話していました。地域の人たちと関わり、協力を得ながら「谷本の森」を子どもたちが守り、維持していくことを応援したいと思います。



相談しながら
階段を作ります



文：加茂 千津子 委員

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています(個人市民税均等割に年間900円、法人市民税に均等割の9%相当額を上乗せ)。計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

環境創造局ホームページ
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/midoriup/>



横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

市民推進会議

みどりアップQとは?

みどりアップQの「Q」は「みどりアップをもっと知る、なぜなに?(クエスション)」と、「緑のある暮らしの質(クオリティー)を考える」。市民目線でみどりアップ計画を探っていく市民推進会議のレポートです。



Q 未来につながる森を守るのは誰? 市民の森愛護会へ

私たちの森を、私たちの手で守ろう。
横浜市内にある市民の森は、それぞれ地元の方々を中心にした市民の森愛護会のメンバーが自主的に維持管理を行っています。
森を守る作業を頑張る人たちの話を聞きに、緑区の三保市民の森愛護会を訪ねました。

これからもずっと続く 市民の森を 目指して

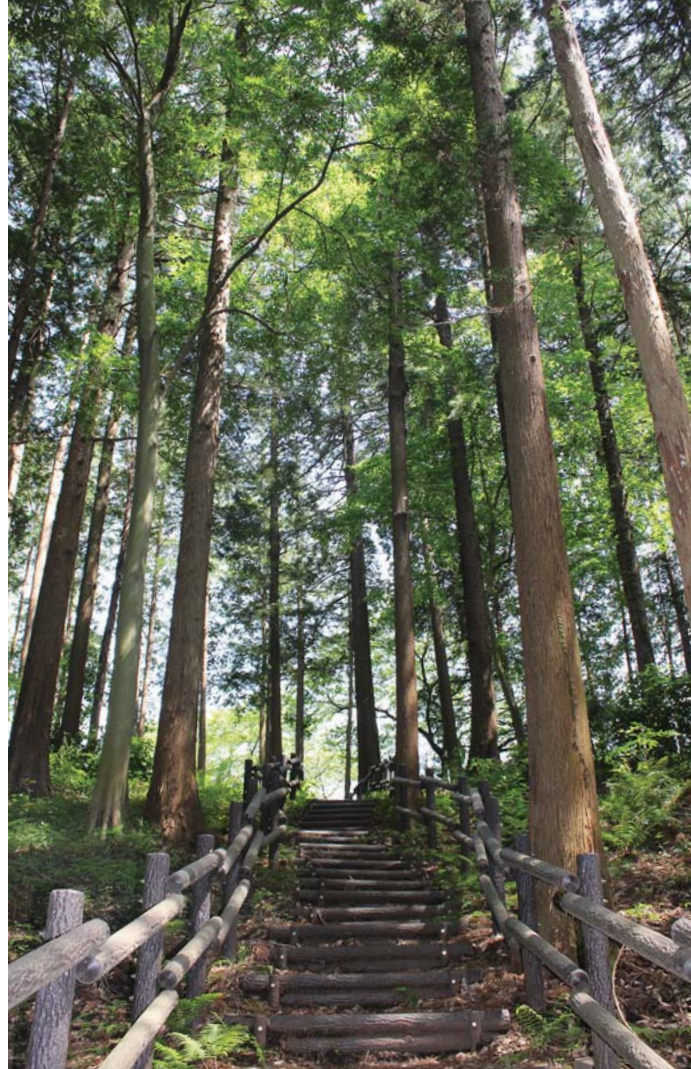
昭和 47 年の開園以来、活動を続けてきた、緑区の三保市民の森愛護会。

愛護会は地域によって個性も様々ですが、その中でも、統率力のとれた組織運営に定評のあるボランティア団体です。土地所有者を中心とした、人と人のつながりを大事に、未来を見据えた森のあり方を模索してきた愛護会の取組や課題は、これから、私たちの“みどり”を考えるヒントにもなりそうです。

取材：東 みちよ 委員

取材メモ 横浜みどりアップ計画 市民推進会議委員が気付いたこと

1. うっそうとした森から明るい森へ
2. 残された貴重な自然を生かしたきめ細やかな維持管理
3. 孫の代、その先の未来も「いい森だ」と言ってもらえるみんなの財産の森を目指して



三保市民の森のいまむかし



岩本誠会長

緑区内に広がる約40ヘクタールの三保市民の森は、静かな丘陵地にあります。森の広場となっている三保平に向かうと、「ピーッ!」という休憩の笛の合図とともに、草刈りの作業をしていた人たちが広場へ集まってきました。三保市民の森愛護会は50年近く続く歴史あるボランティア

団体ですが、統率力と徹底した安全管理で、地域の他の団体からも「愛護会のお手本」と一目置かれる存在。

リーダー役の岩本誠会長は「まずは安全管理が大事」と言います。草刈り機や、チェーンソーなどの工具も使いこなし、プロ同様に森の維持管理をしてきたからこそ言えることなのでしょう。

「開園当初は、うっそうとした山でした。シラカシ、スギ、ヒノキなどが茂っていましたが、市民の森として楽しめるように、まずは根気よく、自分たちの手で明るい森にしていこうということからはじめました」と岩本会長。

その昔、クヌギ、コナラなどの木材は、薪として燃料に使われたり、シイタケ栽培に用いたりして、森は人々の暮らしに欠かせない場所でもありました。しかし昭和50年以降は、そうした需要も

なくなり、人の手が入らなくなった森は荒れていく一方でした。健全な森を育成していくためには、維持管理が必要となります。市民の森として開園したことで、散策路やトイレ、階段の手すりなど、施設の整備もされ、愛護会活動もしやすくなり、また多くの市民に楽しんでもらえるようになりました。



維持管理作業の様子

ここにみどり税 森ごとの保全管理計画※づくり、木の伐採や草刈りなどの森の維持管理費

※保全管理計画とは…植生や立地環境等の特性に合わせて、森ごとに策定する管理計画。森全体の将来像や、環境に応じた管理エリアごとの目標と指標となる生物、必要な作業内容等を、愛護会と市の協働で定めています。

地形や植生を考えた管理

愛護会の活動は、月1回のパトロール日のほか、草刈りや枝打ちなどの作業日があります。パトロールでは倒木など危険な木がないかチェック。春夏の草刈り、秋の伐採などの作業は、保全管理計画※に基づく年間作業計画のとおりに行っています。

「三保市民の森は、起伏に富んだ地形に様々な植生が見られ、場所ごとに手入れの仕方も異なるので、それぞれどう管理していくか考えることも大変」だと言います。

例えば尾根道にはスギ、ヒノキが林立し、谷戸周辺には市内でも有数のシダ植物群が見られるほか、日が入るように手入れした土手にはヤマユリも生育しています。

「三保市民の森を源流域とする、梅田川の上流の小川には、タニシやメダカなど多様な生物も見られます。幼い時に遊んだ自然豊かな梅田川も懐かしいですが、今でも、その貴重な自然がわずかに残されていることに、地元民として誇りを感じます」



作業の前に全員で打ち合わせをします

孫の代、その先の未来へ

土地所有者を中心に構成された愛護会メンバーは、昔の里山の風景を知っているからこそ、森への愛着もひとしお。森の過去から、未来の理想像をそれぞれ抱いて、本気で森に向き合い、時には意見がぶつかり合うこともあります。それでもみんなが目指すところは一緒、と岩本会長は言います。

「孫の代、その先の未来も、ここにたくさんの人が来て『三保はいい森だ』と楽しんでもらえたら嬉しい。そのためにも、今後も長期の保全管理計画を更新していくことが必要だと考えています。行政にも、引き続き専門家の立場から意見をいただきたいですね。また愛護会の作業所も整備されるようになったら、もっと活動が活発になると思います」



森の中にはカブトムシの幼虫もいます

これからの課題

今後の課題は「若い人にも参加してもらおうこと」と愛護会最年少の63歳の守屋治重さん。三保市民の森愛護会もずっと続いていくために、高齢化は大きな課題です。

「作業の後、みんなと一緒に森の中で食べるご飯は最高にうまい！この気持ち良さを味わいながら、市民の森がみんなの財産として孫の代まで続くことを願っています」

みんなで森を守っています！～各地の市民の森の愛護会の皆さん～



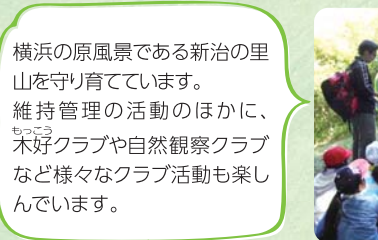
土手や林内の草刈りにより、様々な里山の植物が増えています。小学生に田んぼの指導もしています。新しい仲間を募集中。

荒井沢市民の森愛護会 栄区



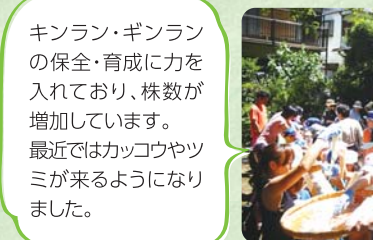
富士山をはじめ山々が一望できる場所があります。自慢の景色です。梅の花も楽しんでいただけます。

下永谷市民の森愛護会 港南区



横浜の原風景である新治の里山を守り育てています。維持管理の活動のほかに、木好クラブや自然観察クラブなど様々なクラブ活動も楽しんでいます。

新治市民の森愛護会 緑区



キンラン・ギンランの保全・育成に力を入れており、株数が増加しています。最近ではカッコウやツミが来るようになりました。

鯉ヶ久保ふれあいの樹林愛護会 泉区



手入れの行き届いた見晴らしの良い桃の里広場が自慢です。子どもたちも気軽に遊びに来られる安全な森を目指して手入れしています。

綱島市民の森愛護会 港北区



広場では大径木を保全しながら、野草も楽しめるよう手入れしています。一緒に維持管理活動をしてくれる仲間を募集しています。

東寺尾ふれあいの樹林愛護会 鶴見区

※市内には、他にも数多くの愛護会がありますが、今回はその一部のみご紹介しています。